

衛星データ利活用の拡大に向けた取組について

一般財団法人 リモート・センシング技術センター
経営企画部 坂田 英一

内外のリモセン衛星の概要

国外においては下記の様な技術的な発達などが進んでいる。日本においても同様の動きがあるが、欧米に比べるとさらなる課題が存在する。

1) 衛星システム、センサの技術的発展

- ・衛星小型化、高分解能化、SARをはじめとするセンサーの多様化
- ・衛星の小型化に伴う衛星保有ハードルの低下

2) ICTの発達

- ・クラウドと直結する衛星受信システムと多数の衛星の運用最適化
- ・IoT、ドローンなどによる現場情報収集能力の強化
- ・商用クラウドによるデータセンターの仮想化
- ・データ提供のユビキタス化の進展。
- ・商用クラウドによるスケーラブルな計算能力によるAI等の分析能力の向上

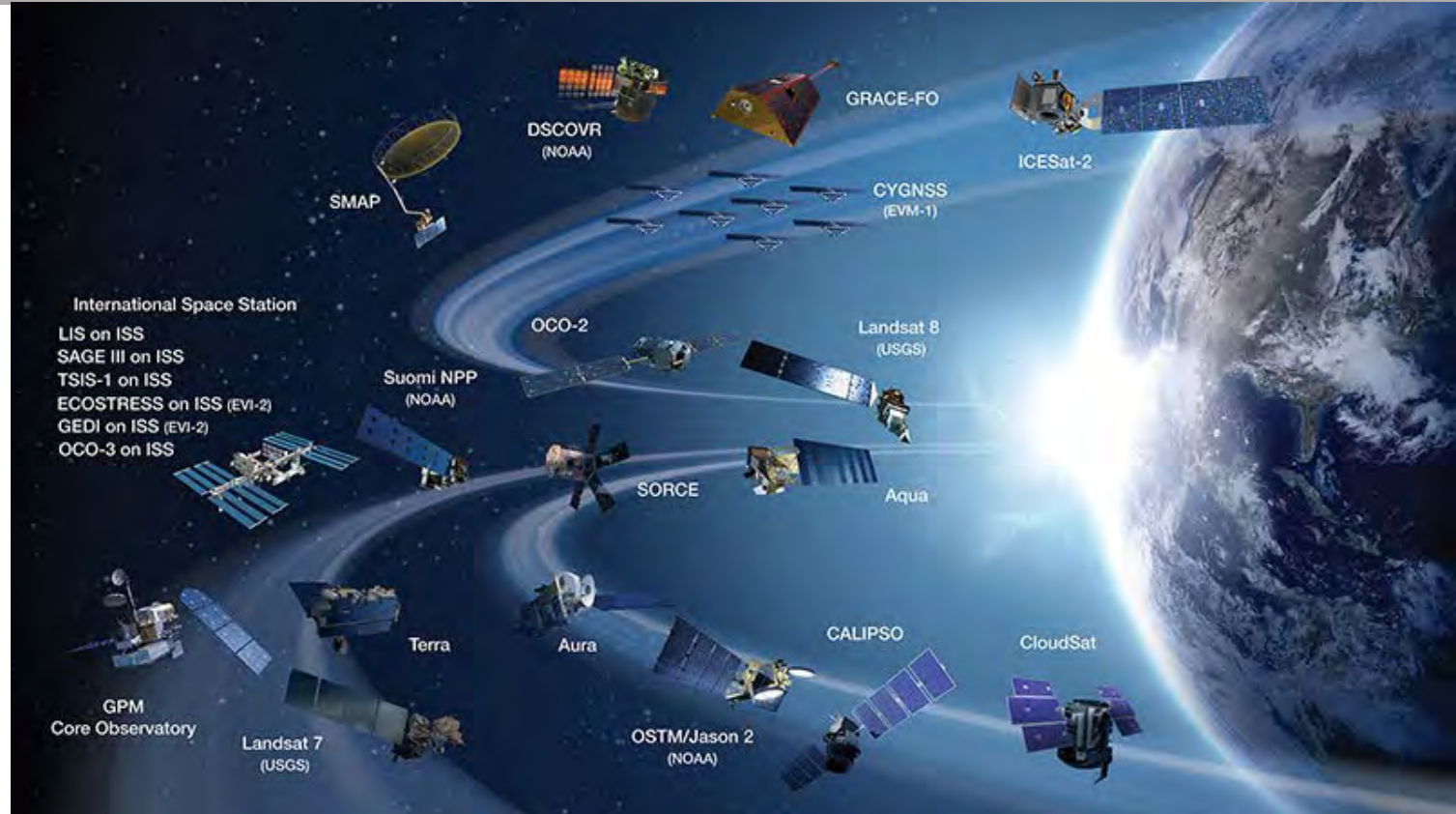
3) 新規事業者参入機会の増加

- ・オープン＆フリーデータの増加による利用者への障壁の軽減
- ・従来の利用事業者やベンチャー等、異業種からの参入の活発化

4) 安全保障におけるインテリジェンス分析能力の発達

- ・Unclassifiedデータの増加、大量データ分析技術による新たな分析技術の発達

NASAによるEOS Science Project Officeによる地球観測衛星



地球観測のうち、高分解能衛星を除く（LANDSATは中分解能）、大気や環境監視、重力測定等のためにマイクロ波放射計や大気スペクトルメータ、レーダ高度計等の多様なセンサを開発し、打ち上げている。